

山行報告

■千町小屋合宿 千町小屋をベースに土曜トレを

●日 程：10月22日(土)～23日(日)

●参加者：A班(大段山)L春本 SL安田 生永 黒本 坂本 中村 苦瓜 平石 村上

B班(千町ヶ峰)L尾内 SL三木(悦) 上田 木村 須増

C班(散策買出)L砂川(延) SL佐々木 阿部 泉 大谷 立花

●行動記録：

(22日) A班 家原遺跡公園 10:20 発一下千町登山口 11:00 発～大段山(12:30 着)

12:55 発～上千町登山口(13:40 着)

B班 家原遺跡公園 10:20 発一登山口(10:30 着)10:45 発～千町ヶ峰(12:28 着)

13:02 発～登山口(14:15 着)14:20 発一千町小屋(14:30 着)

(23日) 4班編成 1～3班・コース別縦走、4班・散策

1班5名・L上田 千町小屋～どうどう橋～杉山～段ヶ峰～笠杉山～千町小屋

2班5名・L須増 千町小屋～笠杉山～段ヶ峰～杉山～どうどう橋～千町小屋

3班3名・L三木(悦) 千町小屋～大吶峠～杉山～段ヶ峰～笠杉山～千町小屋

4班6名・L砂川(延) 周辺散策

◆1日目 千町ヶ峰へ

木村

1泊2日の千町小屋合宿の1日目、食糧担当班の人たちは食糧買い出し後、千町小屋へ直行し、山行組は家原遺跡公園に集合して、大段山と千町ヶ峰の2班に分かれ、車でそれぞれ登山口へと向かいました。

私は千町ヶ峰の山行に。こぶしの村登山口から登り始めると30分ほどはゆるやかな登りでしたが、炭焼窯跡に着き小休憩した後は、薄暗い植林帯の急登がずっと続きました。

標高1000mを過ぎた頃、やっとゆるやかな登りになり、杉林もぬけてあせびの木が広がる明るい所にてほっとしました。

千町ヶ峰の山頂は展望もよく、山々を眺めながら気持ちのよい時間を過ごしました。

山頂標識の下の方に No.9 と書いてあったのですが、これは関東50名山の9番目に高い山ということとリーダーが話してくださり、一つ勉強になりました。

また登る途中でまむし草がとうもろこしに似た形の橙色の実をつけているのを見ました。今まで花をつけたまむし草しか見たことがなかったのでびっくりでした。



下山後、車で千町小屋に向かいました。小屋ではNaさん差し入れのさつまいもがストーブの上で焼いてあり、ホクホクの焼き芋をいただきました。

その後はテーピングの講習です。MさんとKさんにひざ、かかと、外反母趾のテーピングの仕方を教えてもらいました。モデルさんの足にテープを貼りながらいねいに教えてもらい、とても参考になりました。(モデルになったNiさんはテープを貼ったままで翌日山に登ったら足の調子がとても良かったそうです)

そして夕食はぼたん鍋にメはうどん、みんなで鍋を囲んでわいわいおしゃべりをしながら美味しくいただき、今日の予定は終了しました。

久しぶりの千町小屋合宿でしたが、薪ストーブもあっていい小屋ですね。

みなさん、お世話になりました。ありがとうございました。

◆2日目 ②班（笠杉～段ヶ峰コース）

坂本

千町小屋ってどんな小屋？と思っていたら大きい建物なのでびっくりしました。初めての山



小屋泊まりだったのであまり眠られず、朝になってもまだ意識が朦朧としていて、皆さんが朝食の用意をして下さり、お昼のおにぎりまで持たせてもらいました。

私達は2班で5人、まずは笠杉山を目指すコースです。千町小屋を8時出発、ずっと登りばかりが続きましたが、昨日の大段山よりはましかなと思いながら登っていきました。やっと笠杉山の頂上へ着くと素晴らしい青空とすごい山々が見え、はるか向こうには鉢伏山が見えました。1,032mもあり千ヶ峰より

りも高い山にきたのだと感激しました。笠杉山をすぐ下り国境尾根を登り、自分が今どんな位置にいるのか全く分からず、ひたすら前の人について行くそんな状態が続きました。

登りつづけて山上庭園へ着いた時、馬酔木ばかりが生い茂り庭園のような岩があり、まるで日本庭園のような景色でした。そこから竹田城が見えるとの看板があり、そこではじめて朝来市の方へ来ていることがわかりました。山上庭園を過ぎると3班の方々に出会い気持ちがおほっこり。そしてもうすぐ段ヶ峰に着くという頃にまた1班の方々に出会い笑ってすれ違いました。

11時40分、段ヶ峰1,103mに到着、かわいいリンドウが沢山咲いていました。段ヶ峰はすごく景色がひらけいい所で、下の方に見える家々は生野の町とのこと。おにぎりも美味しく、暑くもなく寒くもなく最高でした。そこから帰路につく予定だったが、15分ぐらいで行けるからとフトウガ峰山頂を目指すことに。

メンバー5人が揃いもと来た道を帰る。国境尾根でどうどう橋の方へ下る道がわかりにくく、また行ったり来たりした。そのうち案内板が見つかり下山、岩塊流、クジラ岩、どうどう橋、千町小屋に着いた時は5時だった。どうなるのだろうと思ったけど、明るいうちに到着できてよかったです。他のメンバーの方々もみんな心配して待っていてくださいました。

◆テーピング講習に参加して

苦瓜

最近、歩いていて膝が「あれ！」という違和感を感じる事が時々あり医者に行く事もなかつ

たので良い機会だと思いモデルとして参加。

宍粟の里山は登山口から急登だとわかっていて、本当に登山口はわかりにくく急でしたが膝は三木さんにテーピングしてもらっていたので快適に登山が出来、くるぶしもテーピングを黒本さんにしてもらっていたので「くにゃ」と枝を踏んでも大丈夫だったのには驚きでした。これからは年齢と膝の故障に付き合っていかなければいけないのでテーピングで補助していこうと思います。

楽しい山行を有難うございました。

■青葉山・荒島岳（福井県）

●日 程：10月28日(金)～29日(土)

●参加者：L島谷 SL春本 香川 笹木 苦瓜 平井 松下 村上

●行動記録：

(28日) 姫路駅南 7:00 発ー松尾寺 10:00 発ー東峰(12:00 着)ー松尾寺 14:00 発ー宿「板甚」(17:30 着)

(29日) 宿「板甚」5:00 発ー中出登山口(5:45 着)6:00 発ー小荒島岳(8:45 着)8:55 発ーシャクナゲ平(9:20 着)9:25 発ー荒島岳(10:45 着)11:05 発ーシャクナゲ平 12:20 発ー中出登山口(14:50 着)15:10 発ー姫路駅南(20:40 着)

◆若狭富士 青葉山に登る

松下

青葉山は京都府と福井県の県境に位置し、400 万年ほど前の火山活動からできた山で、コニーデ型の美しい姿から丹後富士とか若狭富士とか呼ばれている。山容は西峰と東峰(標高 693m)の双耳峰を成し、険しい岩稜でつながっていて泰澄大師が修行したという大師洞がある。

青葉山に登るのは2度目で、前回登ったのが2006年11月の16年前。しかし、悲しい事に登山について記憶にあるのは、ご一緒させていただいたメンバーとの思い出ばかりで、今回のような山頂付近の集塊岩の吊り尾根についてもどうやって通過したのか皆目覚えていない。唯一



鮮明な思い出が美味しかったレーションで、山頂付近での休憩時に、今年天国へ旅立ったワタさんからいただいた凍らせたブドウ玉なのである。

そんなことで松尾寺から青葉山へ挑んだわけであるが、竹林から杉林の中を粘土質のヌルヌル道に苦労しながら、木の根っこに躓かないように、キツイ斜度の狭い山道から踏み外さないように、ブナ林でロープがかかっている岩場や梯子にも注意しながら、つづら折りになった急登を時を超えて老化した我が身をかみしめながら登って行った。

西峰には松尾寺奥の院と休憩小屋があり、社の後ろの大岩へは梯子とロープをつかんで登ると、若狭湾国定公園の景観があった。これまでの疲れが吹っ飛ばす見事な眺めである。

ひと休み後にここから東峰へ向かうわけであるが、

なかなか骨の折れる道だった。ヌルヌル急登ありのスリル満点なロープに梯子、クサリの連続だった。無事に通過出来た時にはほっとした。

お昼ごろに青葉山東峰に着く。頂上には青葉神社があり、木々の間から少し展望があるが、木が茂って見えにくい。そういえば、吊り尾根を通過中に植物観察をしている人に出会ったが、この山は植物の宝庫で、400 余種にのぼる花の山でもあるそうだ。頂上付近の断崖に7月上旬に咲くオオキンレイカは固有種で、エゾヒメクラマゴケ、イブキジャコウソウ、モカズラ、アオベンケイソウなど分布上貴重な植物が多いそうだ。



さて、休憩後は安全に注意して下山にはいる。来た道とはいえ、ヌルヌル、梯子、岩場の連続で緊張の連続で疲れる。何とか西峰へ戻って来られた。ここから、まだまだヌルヌル下山道が続く。脚力が弱ると、こんなにも難儀なんだなとため息ばかり・・・。

ゆっくりと休憩も入れながら、無事、松尾寺に下山できた。松尾寺は西国霊場第29番札所で青葉山（あおばさん）の山号を持ち、全国の馬頭観音の総本山であるということだ。もう少しゆっくりと境内を見学したかったが、時間的に余裕がなかった。

車はさらに福井北へ走り、今宵の宿、古民家の料理旅館「板甚」へ向かった。朝が早く駆け足の1日だったが、気持ちはまったりで、古い由緒あるという旅館で美味しい夕食をいただき、明日へのエネルギーを補給した。皆さん、お疲れさまでした。

◆待望の荒島岳

苦瓜

10月29日待望の、大野富士と呼ばれる荒島岳を目指す。朝5時濃い霧の中、宿を出発する。

町中は濃い霧に包まれ、北陸の朝を満喫しながら一路、中出登山口に到着する。Hさんは脚が回復していないため自動車で待つと言う。ストレッチを終え残り7人で杉林に囲まれたコンクリートとジャリ道を登る。荒島岳登山口からは右へ左へと距離だけが長いが高度は上がらない山道を登る。樹林帯に入ると美しいブナ林だ。山あいから大野市の雲海に包まれた市街地が見え、幻想的で美しい。まだかまだかと思ひながらやっと小荒島岳に着く。タイミング良く、白山等の



山々を眺め、ジャクナゲ平を目指す。ここで、下山時の体力温存のため待機するMさんと別れる。一旦下がって登り「もちがかべ」に入るとクサリやロープがある急登や段差の大きい階段道になる。「ヨイショ」と掛声を自分にかけてながら慎重に登りきるとやっと前荒島岳に着く。それから笹原のみちを霧と共に登っていく。うその様に、荒島岳の頂上に着くと360度の眺望が

広がり、白山、三の峰周辺の山々が一望出来た。山頂で昼食をとるが風が強く早々に下山する。復路はすべらない様に細心の注意を払い下りる。Mさんと合流し小荒島岳をすぎると「えっ!!」、なんとHさんと出会う。リーダーの判断で、ここまで来ているので小荒島岳まで3人で登るとの事。私達5人はサブリーダーと一緒にゆっくり下山することとなった。あまり距離が開くことなく、駐車場で全員がそろえられた。

今回の山行でわかったことは、登山靴の紐はしっかりと結ぶと登り下りが大丈夫であるという事。リーダーさんサブリーダーさんの心配り心遣いに感謝。一緒に登ってくださった皆さん、ありがとうございました。

■武田尾廃線跡ハイキング <スロートレック・ゆっくりリズム>

●日 程：10月30日(日)

●参加者：A班L砂川(延) SL木村 生永 大谷 乙坂 岡林 岡田(淳) 河合 小田 黒本 佐野
砂川(美) 立花

B班L森本 SL徳本 田羅間 土井 春本 平石 福原 松岡(雅) 松本(聡) 矢根
山本(正) 吉村

●行動記録：西宮名塩駅 9:25～廃線敷入口 10:55～魚流 10:55～第二武庫川橋梁(11:00 着)
11:15 発～畑熊商店(11:50 着)昼食後・自由解散

◆武田尾廃線跡ハイキングに参加して

立花

「廃線跡ハイキング」という名称をみて、何だか楽しそうと思い、参加しました。

廃線跡って、どんなだろうと、ワクワクしながらのハイキング。JR生瀬駅をおりて、国道を歩いていくと、あぜ道にたどり着きました。ここからが、線路歩きのスタートです。線路は撤去されていますが、地面に枕木が残っており、列車がここを走っていたのだと感ずることが出来ました。



いくつものトンネルがあり、中は暗闇です。みんな頭に懐中電灯をつけて、照らしながら歩くという、非日常的で冒険をしているような楽しさがありました。トンネルの中は、ひんやりとしており、地面を光で照らすと水溜まりがあったりします。トンネルの壁面を明かりで照らすと、薄汚れた模様が映し出され、少しの怖さもあり、ドキドキしながら暗黒の世界を慎重に、歩いて行きました。

トンネルの出口付近に近付くと、トンネルの、まあい形に景色が見えて、インスタ映えしそうな写真が撮れるのも楽しいです。

トンネルを出ると、武庫川溪谷を見ながらハイキングします。

途中、赤色の大きな鉄橋を見ることが出来ます。ここは、撮影スポットとなっており、多くの人がシャッターを切っていました。

トンネルは長いのが、短いのが、いくつもありました。

到着した後は、みんなで、シカやイノシシの料理を青空の下で頂き、自然の中での食事はとても美味しかったです。ビールを飲まれた人もいて、美味しそうと横目で見ていましたが、私は駅に車まで来ていたので、残念ながら我慢しました。

たまには、今回のようなハイキングものんびり楽しめていいなと思いました。今回も楽しいハイキングを企画していただき、本当にありがとうございます。

◆武田尾廃線跡を歩く

土井

最近全然高御位山遊会の山行に参加していなかったのですが、廃線跡ハイキングと聞いてなんだかプチ冒険気分が味わえそうな感じで、おもしろそうだなと思って参加することにしました。

JR 西宮名塩駅まで行き、そこからしばらく道路沿いを歩いていくと廃線跡の入り口に着きました。ハイキングコースの横を武庫川が流れていて川の流れと向こう岸の山を眺めながら気持ちよく歩くことができました。紅葉にはちょっとまだ早かったのが残念です。しばらく歩くといよいよトンネルが見えてきました。ヘッドランプを点けていざ中へ。トンネル内は本当に真っ暗で、足元がちょっとぬかるんでいる所もあってランプなしで歩くのは絶対無理だと思いました。ここからは、川沿いを歩く、トンネル、の繰り返しでした。地面には枕木がそのまま埋まっていて線路の名残が感じられました。2番目のトンネルはちょっと長め、3番目は短め、4番目のトンネルの出口が近づいたとき、暗闇の先に赤い鉄橋が見え、その鉄の感じがカッコよく色鮮やかで一番の映えポイントでした。トンネルの中は日が当たらないのでひんやりしていて最後は寒いくらいでした。全体的には、道もきれいに整備されていて歩きやすいハイキングコースでした。

6つのトンネルを通過してゴールした先に「畑熊商店」があり、お昼はそこで頂きました。猪肉のコロッケ、鹿肉と猪肉の串揚げとジビエ料理が出てきました。はじめて鹿肉を食べましたが、普通に食べやすかったです。でも、まあ豚肉と牛肉がいいなというのが正直なところですよ。



昼食の後は自由解散となり JR 武田尾駅から帰途に着きました。久しぶりに山行に参加して楽しかったです。計画してくださった砂川会長をはじめ、メンバーの皆様ありがとうございました。

久しぶりに山行に参加して楽しかったです。計画してくださった砂川会長をはじめ、メンバーの皆様ありがとうございました。

久しぶりに山行に参加して楽しかったです。計画してくださった砂川会長をはじめ、メンバーの皆様ありがとうございました。

■学習会終了山行(大台ヶ原・日出ヶ岳)

●日 程：11月2日(水)～3日(木)

●参加者：L 砂川(延) SL 和田 大塚 垣内 坂本 仲田 松本(聡) 宮本

●行動記録：

(2 日) 善坊公民館 10:00 発～大台ヶ原・ビジターセンター前(14:30 着)14:45 発～日出ヶ岳(15:45 着)16:00 発～栗谷小屋(18:10 着)

- (3 日) 栗谷小屋 7:00 発～日出ヶ岳(10:15 着)10:15 発～正木嶺(11:15 着)11:20 発～尾鷲辻(11:30 着)11:40 発～牛石嶺(11:50 着)12:00 発～大蛇嶺(12:15 着)12:40 発～尾鷲辻(13:00 着)13:05 発～ビジターセンター前(14:00 着)昼食 14:35 発～善坊公民館(18:30 着)

◆終了山行1日目

大塚

昨日の雨も上がり、11月2日の午前9時過ぎに会長手配のレンタカーに8名乗車で、善防公民館を出発する。山陽自動車道に入り三木サービスエリアで、朝のミーティング。

近畿自動車道を通り、南阪奈道路に入る手前で工事があり一般道路に降りたため、30分ほど時間のロス。12

時30分道の駅

「吉野路・大淀」に着き、昼食を済ませたのち、車は吉野川支流を左手に眺めながら、徐々に高度を上げてゆく。ドライブウエーは今が見頃の紅葉を眺めながら、大台ヶ原ビジターセン



ターに予定より2時間ほど遅れて、午後2時に到着する。

ストレッチをしてから、今日宿泊の「栗谷小屋」に向けてスタート。日出ヶ岳(1695m)へ登り、午後3時58分山頂を出発し(予定よりスタートがかなり遅くなり、明るいうちに小屋到着は無理と思われる)シャクナゲ平を通り、午後5時を過ぎると案の定、暗くなりヘッドランプとヤママップに頼る事になった。

準備をしてくれていたメンバーに感謝、感謝。小屋の明かりが見えた時は皆安堵し、足早になって午後6時10分に栗谷小屋に到着。

遅い到着を待って、準備してくれていた(熱々の)浴槽につかり、夕食の缶ビールが喉を潤して心地よい疲労感に浸った。明日の朝は7時の出発予定なので、今日の疲れをとって明日に備えよう。夏山集中の焼岳に続き今回も、夜の帳に包まれた中で山歩きを経験することとなった。

◆2日目

仲田

山小屋での早朝、寒さを感じて起きる、5時半ごろであった、洗面終えて部屋へ戻るともう朝食の時間なので、食堂へ行くとメンバーのみんなが揃っていた。食堂においてはセルフサービスなので、みんなそれぞれ協力して用意をして、食べる

その後出発の用意をして玄関前へ集合しいつもの、ストレッチ体操を終えて7時頃山小屋を出発する。山小屋の周辺の紅葉を見ながら歩き始める、さあ、、、大台ヶ原の日出ヶ岳を目指して、昨夜の暗い山道と違って登る清々しい朝の気分で歩く途中から、昨夜の山道と合流、、、歩

き続けると、シャクナゲの原生地を歩く途中木々の合間からは雄大な山々の景色が見える。

休憩を取りながら登って行くと階段の山道が続く、どこまで続くのか思いながら、、、終わる



と今度は笹原の景色が続くとあとわずかで頂上までの、標識が出てくる途中で写真を撮り、歩きその後、目指す頂上へ到着、バンザイと叫びながら休憩をする。昨日に比べて天候も良く 360 度の眺望で雄大な山々の景色が見れて納得する、お昼にはまだ早いので次へと歩く。

その後、木々の階段の昇り降りを歩きながらすすむと、周りの景色は名物のトウヒの立ち枯れが見れる場所の正木ヶ原へとしばらくすると尾鷲辻から牛石ヶ原くると

天照大神の銅像を見る、丁度お昼頃で休憩をする。周りは家族連れや、グループの人ばかり我々もおやつを食べて腹ごしらえをする。その後、観光スポットで人気のある大蛇峠（だいじゃぐら）へ到着。

ここは、落下防止の鎖が設置されているが、石場が狭く、下り坂なので写真見るより怖く高いが苦手な人は先端まで行くことが出来ない人もおられたようだ、ほんまに深い谷底や回りの山々の景色が見事であった、その後シオカラ谷の吊橋へ行く予定であったが昼食及びその後時間の都合で再度おなじ道を通り尾鷲辻、ビジターセンターへ向かう。遅くなった昼食を、物産館で昼食をすませる。休憩後大台ヶ原ビジターセンター出発する途中大台ヶ原ドライブウエー走行中の眺めの良いところで小休憩と写真を取った後帰路へ向かう、途中柿の葉寿司のお店に寄った後は県道及び高速道経由しながら善防公民館へ到着。

2 日間において感じた事、途中工事で渋滞で時間の遅延で山小屋への山道でのライトが必要性の為準備がバタバタであった、現地でのお昼段取りで行程の変更が残念であった事。

構成メンバーでの行程の行動予定を厳しいと思うが少しでも余裕がある様に出来ないのかな。

2 日間天候に恵まれ、紅葉も見れて楽しい終了山行でした。有り難うございました。

リーダー会長様には2 日間安全運転又スタッフ垣内さん、和田さんともご参加をしていただき有り難う御座いました、まだまだ慣れないメンバーですが、今後ともよろしく願いいたします。

■ 日生諸島を船と徒歩で巡る

< ゆっくりリズム >

● 日 程 : 11 月 3 日 (木・祝)

● 参 加 者 : A 班 L 徳本 SL 安田 阿部 稲見 井上 臼井 内海 岡田 (淳)

B 班 L 小田 SL 三木 (悦) 佐野 澤田 (律) 立花 田中 (重)

C 班 L 藤原 (千) SL 木村 苦瓜 橋本 (万) 平石 福原

D 班 L 春本 SL 藤本 松岡 三木 (知) 村上 山本 (清)

● 行動記録 : 日生駅 8:30 発 ~ 日生定期船乗り場 (8:55 着) 9:15 発 ~ 大多府島定期船乗り場

(9:45 着) 10:05 発 ~ 大井戸 (10:10 着) 10:15 発 ~ 東屋展望台 (10:55 着) 11:00 発 ~

勘三郎洞窟(11:15 着)11:55 発～大多府島定期船乗り場(12:30 着)12:50 発～頭島定期船乗り場(13:00 着)～ひなせうみラボ(13:15 着)13:50 発～日生駅(15:20 着)

◆歴史を感じる島、景色も素晴らしい大多府島、

自然研究路を西回りで歩く

井上

日生諸島巡りは、こういう機会が無いと行くことも無かったので参加させて頂きました。

11月のお天気に恵まれた楽しい史跡巡りは、7:15分発のJRで姫路を出発し、お話をしている間に播州赤穂に。そこで向かいのホームで待っている日生行きに乗り日生に向かいました。この間、あっと言う間に到着という感じでした。

次は、定期船に乗り目的地の「大多府島」へ。

赤と白のお洒落な船の名前は「のりなは一れ」

名前もユニークな定期船は、船内も外観もお洒落でした。それもそのはず、ななつ星をデザインした岡山出身の水戸岡さんのデザインなのだそうです。

船の上でも風もあまり無くポカポカと今日の日和の良さを感じられました。

「大多府島」は、参勤交代の時に薩摩藩主島津公が台風のためにこの島に避難し、良港ぶりを気に入って備前藩主に割譲を申し込んだが、備前藩群代津田永忠の指揮により1年足らずで港湾施設を整備、開港したという経緯を聞き、島津公は申込を受け入れて貰えず残念だったと思いますが歴史を感じました。

それ以来、潮待ち、風待ち港として利用されていて、最も栄えていた時の人口は1000人ということで、面積0.4平方km、周囲約5kmの2時間程で廻れる島はかなり活気づいていたと思われます。本日は数人の島民の方とご挨拶しました。

「大多府島」で下船後、目に付いたのは、牡蠣の養殖に使う無数の帆立の貝殻。

大多府島での最初の目的地、「六角井戸」。

昔(元禄11年ー1698年)に作られた六角形の石の井戸と近年作られた石の形がスッキリと機械で削ってある六角形の井戸、やはり趣きがあるのは昔に作られた方の井戸でした。

開港以来、水道開設まで島民と農地を守って来た島唯一の井戸は日照り続きの夏にも涸れたことがないそうです。



大多府島での次の目的地「勘三郎洞窟」この洞窟で勘三郎は贋金を造り、深夜タライに乗って陸地に渡り金を使っていたと伝えられているそうです。なんと！勘三郎さん、現在まで名前

が残っていますよ！

今日のようなお天気に恵まれた日は半袖がちょうど良く、それでも汗ばむ

ほどです。

洞窟を目指して石の階段を降りて行きましたが、洞窟が遠くに見えて来たところで道が壊れていて洞窟までは辿り着けず残念でした。(危険なので立ち入り禁止になっている情報もあり)東屋でお昼休憩をして大多府島での次の目的地、生徳4年(1714年)に建立された170年間も

海の見張番をしていた「大多府燈籠堂」へ。石の階段、木造の灯台は、一見の価値があると思います。

夫婦岩を横目に海岸沿いの山際を綺麗な岩肌と青い海を眺めながら落ち葉を踏み締めて進んで行きます。

根本から幹が分かれている大木（名前は何でしょう？）やネズミモチの木も横目にフェリー乗り場へ。この大多府島は、トイレも適度にあり、景色も良く海と山を感じられ大人数でのハイキングには最高の場所でした。

そして、定期船で次の島「頭島」へ。「頭島」では、祝日ということもあり大賑わいの「ひなせうみラボ」でソフトクリームを食べて休憩後、天然のアケビや季節外れの桜、グミの実と言った自然を感じながら歩き「頭島大橋(全長 300m)」へ。

橋を歩くと次の島「鹿久居島」です。この島にはニホンジカ、アオサギ、ミサゴなどが生息。

とても長く感じた「日生大橋(765m)」を歩き本土へ。

本日は、アップダウンもありながらで 19000 歩弱。



時間調整なども含めて、ゆったりとした休憩もあり、心地の良い、歴史と自然を満喫出来た山行？でした。企画して下さいだった徳本さん、下見をして下さった方々、一緒に参加された皆様ありがとうございました。天候にも恵まれとても綺麗な景色を見る事が出来、歴史も感じることも出来、貴重な体験が出来ました。

◆日生諸島を船と徒歩で廻る

三木(知)

天気予報通り、秋晴れの中、日生港から大多府島まで定期船で向かいました。ひさしぶりに再会した同期とおしゃべりしていると、島が見えてきました

石を積んだ防波堤は、元禄 11 年(1698年)に築かれたもので閑谷学校と同じ人が造ったと内海さんに教えていただきました。ストレッチをして六角大井戸を進むと自然研究路の案内板が目に入ってきました。いよいよ登りが始まりました。雑木林を抜けると瀬戸内海が広がっています。右側が断崖絶壁で足を滑らさないように、一步、一步、慎重に登って行きました。

150 年に渡り、沖合の船の運航を守っていた灯籠堂を過ぎると、海の色はエメラルドグリーンで、かすかに波音と船のエンジン音が聞こえてきました。気温もどんどん上がり、汗ばむ陽気となりました。小豆島や、家島諸島も見えて気持ちのいい山歩きです。

西回りの A、B 班と、挨拶をかわしました。昼食をとってから勘三郎洞窟を見に行きました。名前は洞窟ですが、実際は岩の亀裂の間にある空洞のような場所でした。

歩いていると島は手入れのされていないお墓や、空き家も多く、少し怖い気がしました。

定期船乗り場に戻り、海上タクシーで頭島へ。ここからは日生駅までアスファルト道を歩いていきます。ひなせうみラボで、アイスクリームを食べて英気を養ってひたすら歩きました。過疎の島ですが、果樹の栽培がされており、この時期はみかん狩りの看板があちこちにありま

した。直営店でお土産のみかんを買ってまた歩きます。

風光明媚な素敵なドライブコースなのに、車や、サイクリストが少ないのは距離が短いからかなと思いつながら頭島大橋、日生大橋を渡って無事に日生に戻ってきました。海を眺めながら歩くのは、いつもの山歩きと違い開放的でいいなあと実感しました。

リーダー様、メンバーの皆様、ありがとうございました。

